

いちおうじ 一王寺遺跡 現地説明会資料

令和4年7月17日(日) 10:30～
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

●一王寺遺跡とは

- ・「史跡是川石器時代遺跡」(中居・堀田・一王寺)のひとつ。面積は約32万6千㎡。
- ・西側の丘陵を除き、三方を新井田川と旧沢地形(長田沢・寺ノ沢)に囲まれた台地に立地。標高約20~100m。
- ・台地南側を中心に、縄文時代前期から後期(約6,000~3,700年前)までの集落(ムラ)が広がっている。
- ・平成7年から調査を行っているが、遺跡の詳細はまだまだわからないことが多い。
⇒ **遺跡の中心と考えられる台地南側の遺構分布を知るため、令和元年度から調査中**



一王寺遺跡遠景(南東から)

●令和4年度の調査成果(裏図参照)

今回の調査では、丘陵に近い西側斜面と寺ノ沢に近い南側斜面の遺構分布を確認するため、約8,000㎡を対象に調査を行っています。調査の結果、以下のことがわかりました。

①南側斜面の広い範囲に盛土遺構が分布

寺ノ沢に近い南側斜面では、多量の遺物を含む盛土遺構が広い範囲に分布していることがわかりました。

盛土遺構からは縄文土器などが重なって出土したほか、木炭や骨片、貝片なども確認されました(右写真)。出土した遺物から、盛土遺構の時期は縄文時代前期中葉から中期中葉ごろと考えられます。

今年度みつかった盛土遺構のすぐ東側でも、ほぼ同時期の盛土遺構がみつかっており、分布範囲はさらに東側に広がると考えられます。



261 トレンチ盛土遺構遺物出土のようす(南から)

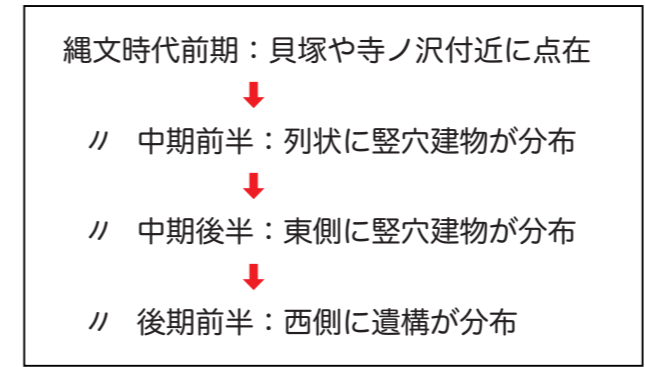
②西側斜面で縄文時代前期から後期の遺構を確認

丘陵に近い西側斜面では、縄文時代中期前葉から後期前葉までの^{たてあな}竪穴建物跡や土坑が確認されました。

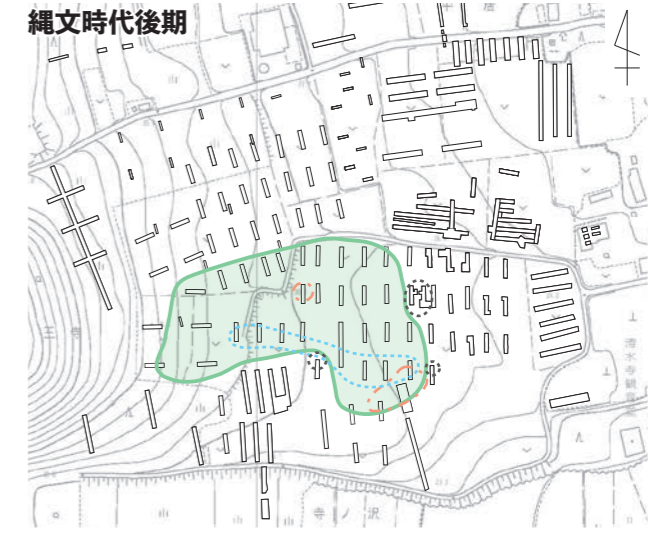
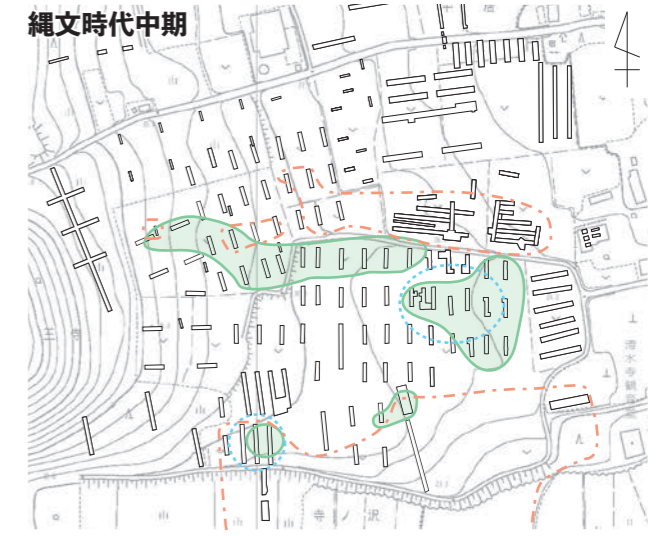
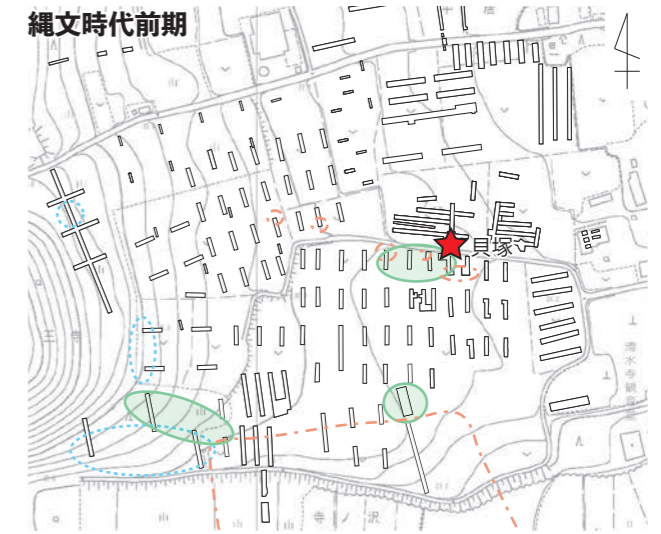
西側斜面のうち、埋没沢(裏図参照)に近い範囲では縄文時代中期前葉から後葉までの竪穴建物跡が、寺ノ沢に近い範囲では縄文時代後期初頭から前葉までの竪穴建物跡や土坑などが確認されています。また、西側斜面の標高の高いところでは、フラスコ状土坑(貯蔵穴)がみつかっています。

●おわりに

今までの調査から、一王寺遺跡の集落(ムラ)の様子や変遷が少しずつわかってきました。

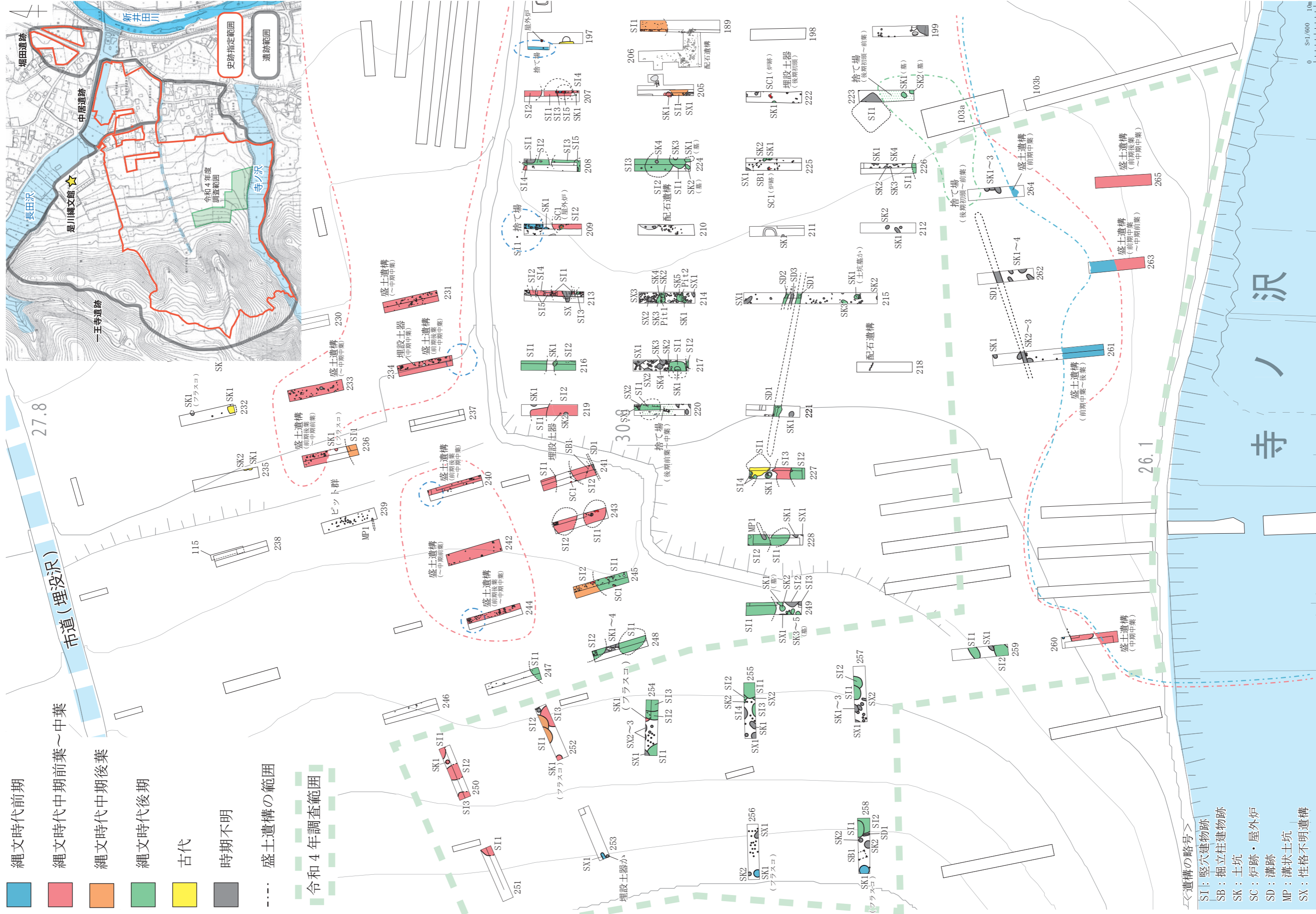


- ①台地南側の緩やかな斜面では、縄文時代前期から後期まで、継続して遺構がつけられたこと。特に、竪穴建物の建てられる居住域は、特定の範囲の中で繰り返してつけられたこと。
 - ②居住域の南北には、盛土遺構がつけられたこと。
 - ③縄文時代後期には、溝跡や土坑墓、配石(集石)遺構など、多様な遺構がつけられたこと。
- また調査によって、縄文時代当時は、現在よりも起伏に富んだ地形だったことがわかりました。盛土遺構や現代の耕作等によって、現在のような緩やかな斜面になったと考えられます。



遺構分布範囲模式図(縄文時代前期~後期)

- 竪穴建物跡の範囲
- 土坑の範囲
- 盛土遺構の範囲
- 配石遺構の範囲



縄文時代前期

縄文時代中期前葉～中葉

縄文時代中期後葉

縄文時代後期

古代

時期不明

盛土遺構の範囲

令和4年調査範囲

遺構の略号

- SI: 竪穴建物跡
- SB: 掘立柱建物跡
- SK: 土坑
- SC: 炬跡・屋外炉
- SD: 溝跡
- MP: 溝状土坑
- SX: 性格不明遺構

一王寺遺跡トレンチ・遺構分布図 (R4.7.15時点)